

令和3年度 学校自己評価表

計画段階

実施段階

80

福岡県立朝倉高等学校長 印  
(全日制)

学校運営計画（4月）			評価（3月）		
学校運営方針	校訓「聡明・自立・敬愛」を拠り所とし、一人一人が自己実現を果たすとともに、国家・社会の発展に寄与する人材をを育成する。				
昨年度の成果と課題	重点目標	具体的目標			
「聡明・自立・敬愛」の校訓のもと、本校独自の「朝倉I・Cプログラム」を掲げ、生徒の高い知性と豊かな人間性を身につけさせることに取り組んできた。からたち祭（文化祭）などの学校行事が新型コロナウイルス感染症のため中止せざるおえなかったが、体育祭は感染症対策をきめ細やかにすることでなんとか実施でき、素晴らしい成果をあげた。確かな学力の習得については、ICT教育機器を活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に積極的に取り組み、また、目標に準拠した多面的評価を行うなど評価方法の改善を図った。しかし、まだまだ十分とは言えず、国公立大学に現役63名しか合格することが出来ていない現状を踏まえ、授業改善、キャリア教育の改善など第1希望進路実現への指導が今後の課題である。	1 自己実現に必要な知識・技能の習得と思考力判断力・表現力等の育成を実現する学習指導	ア ICT機器を活用しながら。「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を更に推進する。また、目標に準拠した多面的評価を行うなど評価方法の改善を図る。 イ 生徒の学習意欲向上に向けて、ハード面・ソフト面の改善を図る。			
	2 将来の夢や志を育み、その実現を目指すキャリア教育の実践	ア 夢や希望を持って主体的に進路を選択できる力を育成するとともに、希望進路実現のために必要な資質・能力を高める。 イ 難関大学進学をはじめ多様な進路実現に応じた計画的、継続的、組織的指導体制を確立する。			
	3 規律と責任を重んじ、自主性や主体性を涵養する生徒指導	ア 基本的生活習慣の確立とともに公共マナー等の指導を徹底する。 イ 学校行事、部活動、生徒会活動などあらゆる機会をととして生徒の自己指導能力を高めるとともに自主性、主体性、チャレンジ精神を培う。			
	4 人としての資質・能力を高め、人生や社会に生かす学びの実現	ア 「朝倉I・Cプログラム」を、人としての資質・能力を高める教育活動として包括的にとらえる。また、カリキュラムマネジメントの効果的な実践を図る。 イ 「朝倉未来塾」など校外外で行われる研修・発表会等への積極的な参加を促す。			
	5 学校の教育活動を積極的に改善し、社会の変化に対応できる学校の実現	ア 学校の今日的課題を発見し、迅速かつ積極的に改善を図る。 イ 課題解決に向けた、効果的・効率的な組織の構築と運営を行う。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題	
教務部	授業の質の向上と指導方法の改善	各教科科目における教材・指導法の共有を徹底する。			
		授業アンケートの綿密な分析や新たな評価方法を軸とした授業改善を行う。			
		思考力・判断力及び表現力を問う考査問題の作成や難関大学の過去問研究に積極的に取り組む。			
	生徒の学ぶ意欲の育成及び自主的学習態度の確立	自宅学習時間「学年数+2時間」を目標とした学習計画表や家庭学習時間調査を実施する。			
		3年間を見据えた学習課題を調整し、点検・評価を確実に実施する。			
		個々の習熟や到達目標に応じた学習指導を実施する。			
	組織的な学習指導の体制づくり	教科連絡会のさらなる充実により、学習指導に学年全体としてあたる。			
		成績連絡表等を通して保護者との連絡を密にし、家庭と一体となった指導の確立を目指す。			
		教科主任会等を通じて、教育課程やクラス編成の検討を行う。			
	総務広報課	「中学生が受検したい高校」となる、効果的な広報戦略の企画	学校案内、「朝高ニュース」の充実・学校掲示板の活用による効果的な広報を行う。		
			体験入学をさらに充実させると共に、ホームページの更新を適宜行い、最新の情報を中学生、保護者に分かりやすく伝える。		
			小郡地区対象の学校説明会、第7学区進路相談事業の内容を充実させる。		
PTA、同窓会、後援会との連携の充実		各学年の担任、学年団、各部との連携を密にして各行事の効果的開催に努める。			
	定例のPTA役員会や各種委員会・運営委員会の開催等に関する早めの調整を進める。				
	PTA関係者や後援会関係者等と意志の疎通を図り、必要に応じて諸行事の内容を改訂する。				
学校行事等の早めの企画立案	月別行事予定を早めに作成、提示する。				
	各行事や儀式の各セクションの担当者が十分に内容を検討し、企画立案を早期に行う。				
	ICT活用推進委員会と連携しながらICT関係機器の円滑な運用・維持を目指す。				

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）	
教務部	研修課	主体的・対話的で深い学びの創造	年2回の研究授業週間を設定し、教員の授業力向上を目指す。		
			年2回の授業アンケートを行い、教員の指導改善と生徒の学習改善を促す。		
			新たな学びプロジェクト研究協力校として、ICT活用技術の研究を行う。		
		校内研修の充実	年5回の職員研修会を設定し、教員の学びの場を提供する。		
			研究紀要寄稿者を増加させ、内容の充実を目指す。		
			教育実習は、ICTの活用等を行い、効果的な授業を目指す。		
		生徒対象の校内研修の充実ならびに外部研修への参加促進	主権者教育・消費者教育の研修会を開催し、社会人基礎力を涵養する。		
			新たな人権課題に対応できる知的理解と人権感覚を育成する人権教育を実践する。		
			外部のさまざまな研修を案内し、参加を促す。		
生徒育成部	生徒育成課	基本的生活習慣の育成およびマナーの向上	大きな声での挨拶を基本とし、他の基本的生活習慣も定着した生徒の育成を図る。		
			他者への配慮を行うことができ、地域に信頼される生徒の育成を図る。		
			いじめがなく、いじめを許さない生徒の育成を図る。		
		生徒会活動・部活動および学校行事の活性化	校内外の様々な活動をとおして、自己指導能力の育成を図る。		
			生徒会活動をとおして自主的・主体的に行動できる生徒の育成を図る。		
			部活動をとおして規範意識とチャレンジ精神を培う。		
	安全意識の向上	交通安全意識の向上を図る。			
		インターネット上での危機管理意識の向上を図る。			
		日常生活に潜む危険への危機管理意識の向上を図る。			
	保健課	健康教育の推進	健康診断・事後指導を通じて自己の健康状態を把握させ、自主的に管理する能力を育成する。		
			新型コロナウイルス感染症等の予防・対策を徹底し、安全・安心な学校生活にする。		
			保健だよりや啓発・推進の掲示物を充実させ、タイムリーな健康情報を発信する。		
教育環境の整備		望ましい教育環境づくりのために、職員が徹底して清掃指導を行い整備に取り組む。			
		保健局・厚生局の活動を活性化し、日常的な美化の徹底やゴミの減量化を実現する。			
		年2回（5,10月）の美化強化週間の設定や定期的な清掃点検を行い、美化の徹底を図る。			
教育相談・特別支援教育の充実		情報交換会や教育相談委員会を通して、共通理解を図り、適切な支援体制をつくる。			
		特別な支援が必要な生徒の実態を把握し、個別支援計画を作成する。			
		スクールカウンセラーや精神科校医の相談を活用させ、専門的知識と助言を受ける。			
進路指導部	進路指導課	最終学年での国公立大現役合格者数80名を目標とした指導体制の確立	系統立てた進路学習を行い、外部模試等のデータを活用することにより、教科指導及び担任の指導に生かす。		
			課外授業、朝高セミナー、ハイレベル講座を生徒の実態やコースの特性に応じて効果的に実施し、生徒の学習意欲と学力を向上させる。		
			総合型・学校推薦型選抜を適切に活用する。また、面接・小論文等の指導を組織的に行う。		
		キャリア教育の充実	大学別説明会、オープンキャンパス、職業体験に参加する機会を設ける。		
			生徒の興味関心と関連・派生させた学問及び職業研究を企画実施する。		
			表現力を育成し、説得力のある小論文を書く力をつけるため、系統立てた小論文の指導を行う。		
		読書活動の充実	図書館オリエンテーションや朝読書に関連づけた広報活動等を行うことにより、図書館利用者を増やす。		
			ビブリオバトルの運営等生徒図書局委員の仕事の充実を図る。		
			生徒・職員の購入希望図書について選書検討を行い、蔵書の充実を図る。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
第1学年	基礎学力、基本的生活習慣の定着	予習・授業・復習のサイクルを確立する。		
		上位層から下位層まで全ての生徒に対して「個に応じた指導」を実施する。		
		個人面談や学習の記録等を活用し、基本的生活習慣を確立させる。		
	進路意識の高揚	講演会や進路学習を通じて、幅広い職業観を身に付けさせる。		
		探究活動（課題学習）を通して、論理的思考力・表現力の基礎を確立する。		
		校外で行われている研修や企画等に積極的に挑戦させ、広い視野を持たせる。		
	主体的な人材の育成	常に集団の一員としての自覚を持った行動を意識させる。		
		学校行事や校外活動等に積極的に参加させ、リーダーとなる人材を育成する。		
		教員団が団結し、生徒のモチベーションを高める指導を心がける。		
第2学年	基礎学力の充実	3教科偏差値60以上80名、65以上を10名以上を育成する。		
		イマミライ手帳や面談週間を活用して学習状況を把握する。		
		ハイレベル講座や補習授業、予備校課外と連携して多角的に学力を向上させる。		
	進路実現のための資質・能力の養成	未来塾・オープンキャンパスを活用して高い志を持たせる。		
		課題探究活動と修学旅行を連携して主体的に生徒に活動させる。		
		特進クラスについては行事を通して難関大学受験への意欲を高揚させる。		
	規範意識の醸成	校内外での行動や態度を計画的・組織的に指導する。		
		学年行事や学年集会を生徒自身で企画運営し、改善・検討させる。		
		校外研修やオンライン研修に積極的に参加させる。		
第3学年	多様な進路希望に応じた組織的指導体制の確立	生徒の希望進路に応じ、ハイレベル講座や補習、個別対策等の柔軟な指導を心掛ける。		
		学校の授業をベースに、生活のリズムを確立し、家庭での自学を充実させる。		
		模試を利用して、成績を分析し情報の共有を図り、3学年に関わる教員全員で指導する。		
	希望進路の実現	総合型選抜や学校推薦型選抜などの推薦入試で、国公立大学合格10名以上を目指す。		
		教員団で、生徒の希望進路の情報を共有しながら、生徒にも適切な入試に関する情報を提供する。		
		入れる大学ではなく、自分が本当に入りたい大学にこだわらせる。		
	社会に貢献できる生徒の育成	学校行事を通して、他学年をリードできるような主体性やリーダーシップを身につけさせる。		
		社会問題、時事問題に関心を持たせ、これからの社会で自分に何ができるのか考えさせる機会を作る。		
		生徒の視野の拡大と自己指導能力の向上を図る。		